

東京都オリンピック・パラリンピック教育

Moving FORWARD

東京都では、全公立学校・園で、平成28年度から6年間、オリンピック・パラリンピック教育を実施してきました。実施した主な取組の内容と経験した子供たちの「声」を集めましたので、御紹介します。

東京2020大会参画

・学校連携観戦

東京2020パラリンピック競技大会の競技観戦を実施

選手たちの緊張感や白熱した様子を感じ取ることができて、試合が終わった時はとても感動しました。

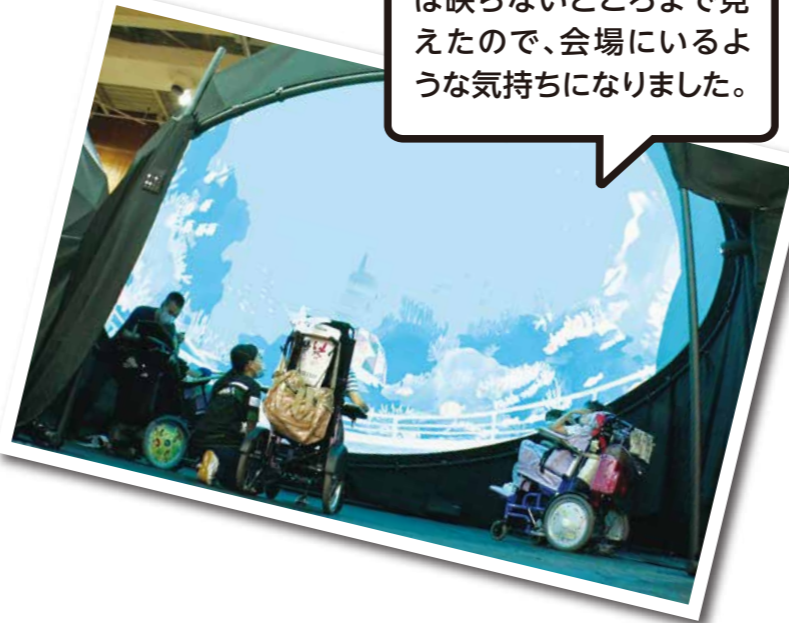
直接観たからこそ迫力や、チームごとの一体感を感じられてとても良い経験ができたと思います。



・VR観戦

最新テクノロジーを活用し、まるで競技会場にいるような特別な競技観戦を実施

VRシアターは、テレビには映らないところまで見えたので、会場にいるような気持ちになりました。



・こん棒制作

東京2020パラリンピック競技大会の陸上競技用備品「こん棒」を、都立高校の生徒が制作

どんな形が投げやすいか、選手のことを思い描いて作ったこん棒が、世界の舞台上で実際に使われたことが何よりも嬉しかった。



ボランティアマインド

発達段階に応じて、子供たちのボランティアマインドを育めるよう、ボランティア活動を実施

自分たちが住んでいる地域を清掃することで、すがすがしい気持ちになりました。



ボランティアには、人と人をつなげ、新しい友達ができるチャンスがあります。私はボランティアをした後で本当に幸せな気持ちになりました。



障害者理解

障害者スポーツの体験や障害者との交流など、障害者理解の取組を実施

講師のアスリートから障害を個性だと前向きに考えていることを聞いて、素直にすごいと思いました。



駅や階段などで困っている、目の不自由な方がいたら声を掛けてみようと思いました。



スポーツ志向

オリンピックやパラリンピアン等のアスリートが学校に来校し、直接交流を実施

努力をしていけば、必ず成果が出るということを知りました。私も将来の夢に向かってたくさん努力をしていこうと思います。



あきらめないうで続けていくことで、夢がかなえることが心に残りました。



日本人としての自覚と誇り

芸術文化団体と連携して、芸術文化の鑑賞や体験等を実施

世界の人が、日本にとっても興味があることが分かって、自分もその魅力を発信したいと思いました。



これまで当たり前だと思っていた日本の文化は、実はとても素晴らしいのだと気付きました。



豊かな国際感覚

5カ国以上の国や地域についての地理・文化等の学習、留学生や大使館・海外の学校との交流を実施

外国から訪れる人たちと小さなことからコミュニケーションを取ってみたいと思いました。



多様な国や地域の文化を調べることで、その国や地域への関心が高まり、選手の応援にも力が入りました。



環境

環境問題について学習し、3R(リデュース、リユース、リサイクル)等、子供たちが自主的な活動を、家庭・地域と連携して実施

花苗の植え替え活動をして、これからも地域の自然を大切にしたいと思いました。

大会のメダルがリサイクル金属から作られていることを知り、環境保全の活動として、ごみの分別や裏紙の再利用など、自分たちにできることから取り組んでいこうと思いました。



都内全公立学校・園は、6年間で培った多様な団体とのネットワークや、家庭・地域との連携を生かした体験活動を「学校2020レガシー」として継続・発展させていきます。

東京都教育委員会
Tokyo Metropolitan Board of Education

